

みんなのでつくろう
福祉コミュニティ
あすにはばだけ

乙島っ子

編集発行
乙島小学校区コミュニティ協議会
乙島小学校区社会福祉協議会
広報部
倉敷市玉島乙島2228-1
乙島小学校区(令和3年12月末)
世帯数 2,771
人口 6,291
15才未満 731
高齢化率 32.61%

共に支え合いながら、住み慣れた乙島の地でいつまでも安心して暮らしていける、優しくて活力ある乙島小学校区を皆様と一緒に作っていけるよう努めてまいりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

しかしながら、コミュニティ協議会は平成二十九年七月から事業開始した「乙島ボランティアらんらん」を運営しています。高齢者の方や障害のある人たちの病院への通院や買い物支援する事業です。今年度はコロナの非常事態宣言やまん延防止等重点措置の適用によって何度か連休することはありましたが、感染対策を万全にし、週三回の運行を続け利用者に喜ばれています。自分たちの住む地域にこうした事業が運営されていることは大きな安心材料になっています。

就任当時から新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、度重なる自粛要請を受け外出することもできず巣こもり状態が続いていました。コミュニティ協議会事業もほとんどが中止や縮小となり、乙島しゃくの天ぷらを作ったり、ソープ流しの準備などを通して、子供たちの一番の笑顔が見える大会や事業が無くなると同時に、女性スタッフの活躍の場も少なくなっていました。

私は民生委員・児童委員でもありますので、これまでもずっと活動に関わってまいりましたが、役員としては新人であり先輩方にご指導いただきながら、少しでもお役に立てるよう頑張りたいと思っています。



平成十一年のコミュニティ協議会設立以来長年にわたりご尽力された重政副会長の後任として、令和二年の役員改選で選任されました。

やさしさと活力ある乙島へ

コミュニティ協議会 副会長
中原 富江

そして今年の夏に最大の目標としていた東京パラリンピックに出場することができました。東京パラリンピックという舞台は全てが感動であり、何ものにも代え難い経験となりました。特に開会式は言葉にならないほどの感動と興奮があり、会場に

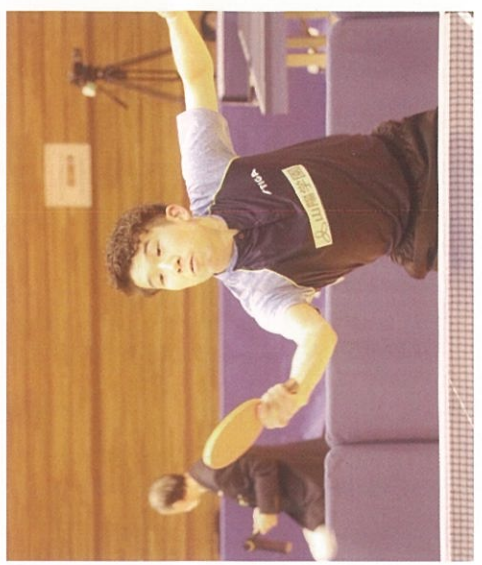
私は生後八カ月の時に交通事故に遭い足に障がいが残りました。当時は生死をさまよい、寝たきりか車椅子と言われていましたが、歩く事ができるまで回復しました。体を動かす事が大好きで様々なスポーツに挑戦してきました。しかし体の成長に伴い走ること、激しい動きは難しくなり、同級生との差を感じるようになりました。その時に乙島小学校のクラブ活動で出会ったのが卓球でした。

今後もしっかりと練習を続けて、地元発展のため努力して参ります。

今後につきましては生家の寺院継承のため、僧侶としての修業、勉強を行って参ります。また卓球活動においては指導者を目指し、これまでお世話になった恩師のもとで新しい挑戦をしながら、パラ卓球発展のために普及活動、またパラリンピックをめざす選手の環境整備を行いたいと考えております。

東京二〇二〇パラリンピックを経験して

井上 全悠



足を踏み入れた瞬間の胸の高鳴りは今でも鮮明に覚えています。試合会場の雰囲気は今までの大会では感じたことのない素晴らしいものであり、ここに一分一秒でも長く立っていたいと思えるような場所でした。またコロナ禍での開催のため無観客でありましたが、様々なメディアを通してパラ卓球、パラスポーツの素晴らしさを伝える事ができたのではないかと感じています。この貴重な経験をこれからの人生に活かしていきたいと思えます。



足踏みの瞬間の胸の高鳴りは今でも鮮明に覚えています。試合会場の雰囲気は今までの大会では感じたことのない素晴らしいものであり、ここに一分一秒でも長く立っていたいと思えるような場所でした。またコロナ禍での開催のため無観客でありましたが、様々なメディアを通してパラ卓球、パラスポーツの素晴らしさを伝える事ができたのではないかと感じています。この貴重な経験をこれからの人生に活かしていきたいと思えます。

足踏みの瞬間の胸の高鳴りは今でも鮮明に覚えています。試合会場の雰囲気は今までの大会では感じたことのない素晴らしいものであり、ここに一分一秒でも長く立っていたいと思えるような場所でした。またコロナ禍での開催のため無観客でありましたが、様々なメディアを通してパラ卓球、パラスポーツの素晴らしさを伝える事ができたのではないかと感じています。この貴重な経験をこれからの人生に活かしていきたいと思えます。

足踏みの瞬間の胸の高鳴りは今でも鮮明に覚えています。試合会場の雰囲気は今までの大会では感じたことのない素晴らしいものであり、ここに一分一秒でも長く立っていたいと思えるような場所でした。またコロナ禍での開催のため無観客でありましたが、様々なメディアを通してパラ卓球、パラスポーツの素晴らしさを伝える事ができたのではないかと感じています。この貴重な経験をこれからの人生に活かしていきたいと思えます。

皆様のご理解とご協力を、よろしくお願い致します。

交通安全母の会は『交通安全は家庭から』を合言葉に、今後も地域の方々が安全で安心できる町づくりをめざしてまいります。

交通安全母の会は、『交通安全は家庭から』を合言葉に、今後も地域の方々が安全で安心できる町づくりをめざしてまいります。

交通安全母の会は、『交通安全は家庭から』を合言葉に、今後も地域の方々が安全で安心できる町づくりをめざしてまいります。

『事故のない町』をめざして

交通安全母の会 会長
樋口 亜希子

われら乙島宣伝隊!

乙島小学校 校長 塩崎 弘之

旧大原家住宅を「語らい座 大原本邸」という名の交流施設として立ち上げられた館長の山下陽子さんは、永年にわたり県北の高校にお勤めで、校長になって初めて倉敷の高校でお勤めになりました。その山下さんは、「県北のことを思うと、倉敷は、まるで『別世界』。文化水準も高いし、人々も活気に溢れている。しかし、一方で、地域のことは疎い。祭りの日であっても部活を普通に午後7時までやっている」と、課題意識をもたれたことを本施設の立ち上げの理由として語っておられます。このお話は、これまでおよそ30年間、水島、倉敷地区等で勤め、このたび初めて玉島地区で勤めさせていたただくことになった私にも通じるものを感じさせるお話ですが、私の場合、玉島、特に、乙島のこれに関わった方々は、先のご指摘とは異なり、地域のことに熱く、深くあらわれます。この文面の執筆時の11月を振り返ってみても、乙島祭り保存会の方々による出前講座、地域の防災士の方々による出前授業等を手がけていただき、いずれの方々も、潤沢な資料、熱心な語りで、児童に「乙島祭りのいわれ」「水害に対する避難の仕方」等の情報を届けてくださいました。私は、それに加え、「地域の誇り」「地域に生き、暮らすところ」まで届けてくださったと確信しています。本当に素晴らしい方々、素晴らしい地域です。

さて、学校は…といいますが、間違いなく地域と児童、地域と保護者とを結ぶ「結節点」にあるといえます。私も、われわれも、これまで同様、これからも「乙島宣伝隊」として「乙島の誇り」「乙島に生き、暮らすところ」を届けるお役に立ちたいと思っています。

泉谷のウクレレ仲間

泉谷 原田 珠子



泉谷の夏祭りのイベントで私はウクレレに出会いました。楽器を作られる浅原さんが身近におられたので早速お願いして作って頂きました。

2018年7月5日に8人の仲間が出来ました。泉谷なかよし会では楽器演奏は初めてです。

「ドレミの歌」の楽譜を貰って弦を指で押さえながら、ピロンピロンと弾きました。折に触れて浅原さんが“ポップス”を格好良く弾かれる姿にうっとりしながら毎月一度の練習に皆、励んでおります。今では56曲の楽譜が手元にあります。

2019年5月には打楽器が加わり、曲のリズムがとれて弾き易くなっています。

メロディーを奏でると、曲に親しみが増してきます。音符を辿りながら指を動かすことは脳にも良い影響を及ぼすと信じています。

サロンのテーマ曲は「見上げてごらん夜の星を」「遠くへ行きたい」「上を向いて歩こう」です。

浅原さんの指揮で、全員でウクレレを演奏する時は心が一つになり幸せを感じます。

泉谷のウクレレにエールを!

“互近所”パントリープロジェクト

倉敷市社会福祉法人 生活支援コーディネーター 松本 和徳

長引くコロナ禍で、高齢者の健康作りや交流の場となっている“通いの場”でも、感染状況によって、活動の自粛と再開を繰り返す難しい運営が続きました。

通いの場の参加者から「顔を合わす機会が減ると、ご近所の暮らしづくりがわからない」「ちよっとしたことが相談し難くなった」という声がきかれ、このような時こそ、お互い気にかけて合うことの大切さを感じました。

倉敷市社会福祉協議会では、昨年から地域の企業や団体、個人からの善意で寄せられた食材や生活雑貨をご近所で助け合う活動や繋がりづくりに活用する取り組み“互近所パントリープロジェクト”を行っています。

地域の中学校として

玉島東中学校 校長 渡邊 雅子

四月から玉島東中学校でお世話になっております。玉島の地で勤務するのは初めてで、地図を見ても学校までの道順がよくわからず、不安な気持ちで校門をくぐりました。朱塗りの校門を入ると、「強く・正しく・あたたかく」と刻まれた石碑が迎えてくれました。

本校の校訓であり、玉島東中学校の生徒、教職員がこの精神で日々の教育活動を行っています。コロナ禍で、多くの行事が中止や延期、変更になるなど、以前のような教育活動ができにくくなっています。しかし、このような状況ではありますが、地域の方々が学校教育に対して、暖かい気持ちで支えてくださっていることを感じております。11月に、主任児童委員さんと民生委員・児童委員さんとの懇談会がありました。約30名の方々の参加がありました。本当にたくさんの方々が地域の子どものことに関心を持っておられることがわかりました。「近所に中学生があまりいない。」という声を聞き、少子高齢化が進んでいるのだなあと感じました。だからこそ、これから地域を支えていく力となる中学生が、地域とともに成長していくことが大切になってきます。伝統あるこの地で、地域の方々の温かい見守りにより、地域を誇りに思い、地域に貢献できる生徒を育成していくことが、学校の使命だと痛感しております。玉島東中学校が地域に愛され、地域の一員として皆様に大切にされるよう、努力してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

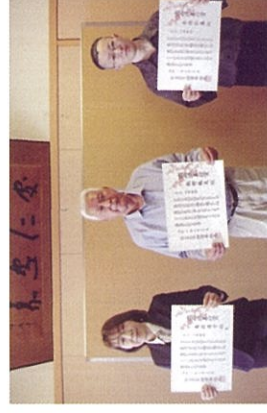
板野敏夫氏、人命救助で『県善行賞』を受賞

コミュニティ協議会 副会長 早瀬 俊和

令和3年3月15日早朝、女性のタクシー運転手が、手押し車ごと用水路(幅、深さ約1m)に転落している高齢の女性を発見した。水路が深かったため近隣住民に知らせ助けを求めた。駆け付けた板野さんが水路から女性を救助し、隣家の女性が用意した椅子と毛布でびしょ濡れになった女性の身体を温め、消防署に救急車の手配をしました。

民生委員をしている板野さんは、女性の名前を聞くと渡里在住の女性と解ったので、渡里町内会長に連絡をし、身内(岡山在住)に連絡を取ると共に、着替えも用意してもらい到着した救急車に乗せました。病院で待機していると、しばらくして玉島警察署の署員が来て事情を聞かれました。その後、身内の方が到着したので、引継ぎをしました。幸いにも、女性の方は命には別案なく骨折だけの事でした。

これにより、令和3年5月19日玉島警察署において若本幸一



(板野氏 写真中央)

署長から、板野敏夫氏とタクシー運転手の二人に、『岡山県善行賞』の表彰伝達式が行われました。板野さんは「今回のことを地域住民の皆様と共有し、用水路の危険性を周知したい」と述べました。

半年後、用水路には転落防止柵が設置されました。

通いの場でも通常の活動ができず、繋がりを保つことが難しい状況でしたが、このプロジェクトと連携して、参加できない人へ食材をお届けがてら見守りや支え合いのきっかけにも活用されています。

乙島地区では“今できること”を柔軟に検討して実施されています。このような前向きな取り組みは、今だからこそとても大切だと思います。

地域では「刃物砥ぎ」という自分の特技を活かして、コロナ禍でもできるボランティア活動をされている方もいます。刃物砥ぎの相談や互近所パントリーの詳しい内容に関心のある方は、生活支援コーディネーター松本までご連絡ください。

問い合わせ先 倉敷市社会福祉協議会 (担当 松本)

☎086-434-3301

明治17年(1884)乙島の高潮被害

郷土史家 大島 崇雄

8月25日午後6時西南の風が起こり、午後7時暴風となった。翌26日午前1時前より西風となり、平常の満潮時に比べて7尺余(約2m)の高潮が起こった。

乙島岡新開の堤防で3ヶ所(現クラレ北側より水溜までの平坦部)。井野浦(現富士野工場あたり)、じゃかご土手(渡里〜川崎)、沖新開、のちの猪木新開(高梁川中州)の堤防が決壊しました。

午前3時高潮が弱まり、午前4時暴風・高潮は治まりました。高潮被害により23名の村民が犠牲になりました。

犠牲者のうち10歳以下の子供が8名(乳幼児が6名)、寝込みを襲われた為に被害が甚大になりました。また、家屋流失及び破壊戸数は200戸にのぼりました。

藁葺き屋根にしがみついて小高地から焼山(水溜)の石鎚神社辺りまで流されて九死に一生を得た村人や、滝澤氏宅(才の谷・元市長宅)石垣下まで海水が来たと言ひ伝えられています。

明治天皇に被害が報告され、3千円が岡山県へ下賜されました。下賜金と義捐金で「恩賜の布団」2600枚が作成され、11月23日円乗院で乙島村の被災者に布団が手渡されました。

ボランティヤ 福祉無償運送「乙島VOらんらん」 利用会員募集のご案内

利用料：ガソリン代実費のみ

☆運行日程：週3日(火曜、水曜、金曜) 予約制

☆運行時間：8:00~18:00

☆運転手さんも募集中

【お問い合わせ先】

乙島小学校区社会福祉協議会 事務局 (担当 瀧澤)

〒713-8102 倉敷市玉島2丁目23-31 電話 090-4692-3686

又は、町内会長・お近くの民生委員まで



グラウンドゴルフデビュー

乙島小学校4年 神崎 拓己

「家でゲームをしているより、たまには外で体を動かそうや。」とお母さんにさそわれて、どんなものかもルールも知らないまま行きました。

会場に着くと、地いきのおじいさんおばあさんがたくさんいるのに子どもは、ぼくを入れて7人だけ。受付でチーム分けをかくにんすると、お母さんとも別で一気に心細くなり不安でたまりませんでした。

それでもゲームが始まると、同じチームの人がどうすれば良いか一つずつ教えてくれたので、ドキドキしたけどなかなか上手に打てたので少しずつきんちょうがほぐれていきました。初めて持つクラブは思ったより重くて、ボールを打つ時の力が少しでも強いと遠くまで転がりすぎて調節がむずかしかったです。なのに、おじいさんおばあさん達はかんたんそうにホールインワンを出す人もたくさんいて、信じられないくらいうまくかったです。これが長年の練習の成果か?!と思いました。だんだんなれてきたころには、楽しくなって、どうやったら思ったところへ打てるのか上手な人の番にじーっと



乙島祭りフェスティバル協議会の紹介

令和3年度F協議会 会長 小幡 久人
高地町内会 会長

乙島祭りフェスティバル協議会(略称・F協)は、御船・千歳梁及びだんじりを現在運行している12町内の代表者で組織される乙島祭り保存会の下部組織です。

保存会は、戸島神社の全氏子町内会で組織しています。中でも乙島祭りにおけるF協の役割と責任は特に重く、会議を通して祭りを安全且つ成功裏に終えるよう協議すると共に、祭り当日までの準備や設営まで、保存会役員と共に中心的な役割を担っています。

ご存知の通り、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い一昨年、昨年と2年続けて乙島祭りが中止となりました。それに伴い千歳梁等の巡行も見送る苦渋の決断をいたしました。

先に述べた通りF協は、より良い祭りの開催を目的に従来活動してきたにも関わらず、まさか、祭りをを行うか否かを協議せざるを得ないとは誰も思っていないまでもありました。改めてウイルス感染の恐ろしさを感じた2年でもありました。

令和4年度こそ、この歴史と伝統ある乙島祭りを以前の様に勇壮で華やかな祭りに復活させたいと誰しもが願っています。



新型コロナウイルス感染の感染状況を注視しウィズコロナ時代に対応できる乙島祭りの運営も視野に入れ、協議を重ねる必要があると考えられています。

今後も乙島地区の皆様、一層のご理解とご協力を宜しく御願いたします。

敬老の日に寄せて

民生委員・児童委員 赤沢 始

今年度もコロナ禍でコミュニティ協議会主催の敬老会を例年の形で開催することができませんでした。そこで、各町内の会長さんから、お元気な長寿さんを3名ずつ推薦していただきました。

95歳以上の「横綱」4名、90歳から94歳までの「大関」14名、88・89歳の「関脇」9名、85歳から87歳までの「小結」7名の計34名です。大相撲番付のように乙島地区ならではの長寿番付認定書とお祝い品を各町内の会長さんを通じて手渡していただきました。なお、100歳以上の「名誉横綱」は2名おられ、元気に過ごされています。

次回は、コロナも収束し、大勢で長寿さんをお祝いしたいものです。

見て観察しました。コース上の土がポコポコしているときはボールのいきおいが弱くならないよう少しだけ強めに打つ。ホールポストの近くまで行けた時は、やさしいタッチで打つと良いことが分かってきました。次こそうまくいくぞー!と思います。頭で分ってもかんたんには出来ません。公園でよく見かけるおじいさんおばあさんのように練習の積み重ねが大事なんだなーと思いました。

全員のゲームがおわるころには屋になっっておなか为空きました。表彰式の小学生の部で4位になりました。うれしくてはさすがにたけど、とても良い記念になりました。次はもっと小学生仲間が増えてほしいです。

令和3年度事業報告

実施月	日	事業名
5月	30	総会
7月	4	コミュニティハウス大掃除
9月	12	第15回敬老会
10月	30 31	乙島祭り(地域清掃のみ)
11月	7 28	第19回ふれあいウォーク 第6回三世ふれあい グラウンドゴルフ大会
12月	19	注連縄(しめなわ)作り
1月	10 15	第2回手作り凧揚げ大会 とんど焼き

◎火災警報器共同購入について、各町内会長、自主防災会会長等の協力を受けて183世帯367台を販売する。35世帯の取り付けには10人の“お助けボランティア”が活動した。

中山町内会の紹介

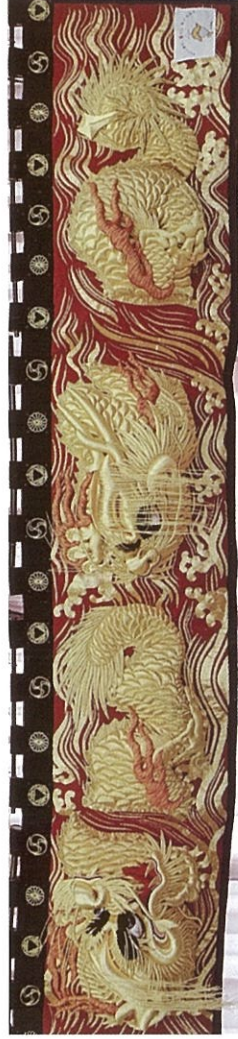
中山町内会 会長 樋口 卓美

中山町内は水玉ブリッジラインより北で大池の西側に位置し、現在の世帯数は四十四戸で、百十八名が住んでいます。高齢化率は四二・四%と高く、今年のコミュニティ協議会の敬老会において、名誉横綱(二〇二歳)を筆頭に横綱二名、大関一名の元気を長寿高齢者四名が大変名誉な表彰を受けました。町内には、町内会、中友会、青年団などの各部会があり、廃品回収、公園清掃、千歳菜田干し、お大師様、お地藏様、地鎮様、お稻荷様祭り、自主防災訓練、防災講話及び高齢者脳トレ、祭り等を年間事業計画に基づき実施しています。しかし、この二年間は新型コロナウイルスの感染拡大により、ほとんどの事業及び活動が中止になりました。

我々町内の宝物である千歳菜を紹介いたします。文政三年(一八一〇)伊予の国の中古の千歳菜を猪木與五兵衛直

氏が大半の金子を寄付して購入、力車の彫刻「浦島太郎」「おのえのじいばば」は左甚五郎を真似て室山時代に制作されたものと伝えられています。乙島地区の千歳菜で最も古く、水幕刺繍は追いかげ籠布団締め意匠は伝統の登り籠、下り籠と見事なものであります。平成三年十月に新調した水幕を令和二年に大修理を行い、盛り上げる予定がコロナ禍で乙島祭りが二年連続で中止となり、次回にお披露目します。

現状、当町内でも伝統行事の祭りは後継者育成が難しくなり、このままでは消滅の危機にあると危惧しております。伝承には、地域住民が地域文化である祭りを正しく理解し、大切に作る気持ちを育て、奨励するところから取り組む必要があると考えています。



〈見事な水幕!〉

船堀町内会の紹介

船堀町内会 副会長 瀧澤 政司

船堀の地名はここが「船溜まり」として利用されていたことに由来しているとのこと。

町内には金刀比羅神社があります。四〇〇年位前、讃岐の金刀比羅宮より分霊され、大国主大神をお祀りしており、暮末から明治にかけては玉島港と共に大変繁栄していました。

渡里自主防災隊の紹介

渡里自治会 会長 原田 英一

渡里自治会の会員世帯数は六十四戸で若い世代が少ない町内です。

隊員は現在十五名で当自治会は五組に分かれていて各組から万遍なく選出しています。

今年の自主防災活動は十月十日(日)に行いました。

最終的な避難場所は乙島小学校ですが、一時避難場所は住職不在の常照院で隣の城・岡の辻町内と共同使用しています。

市から頂いた毛布、飲料水に今回乾パンをつぎ足し、賞味期限を確認

し、自主防災隊員・各組当番は避難場所の間取り・避難経路の確認をしてもらい、避難経路については来春防犯灯の設置を決めました。数十メートルの高台にあるため年配者の搬送、付き添いも組当番と、その組の自主防災隊員を中心に、避難することも決めています。

昨年の防災訓練では、二トンプーカーに一台分の砂で二百袋の土のうを作りました。また、災害時援護者台帳に記載された要援護者に対しては、真の要援護者を絞り込み、それぞれの要援護者に組当番・隊員を張り付け対応しています。

課題は組当番が毎年変わると、若い人が仕事に行っている時間帯のみ援護を依頼する家庭も多く、限られた人員で援護するため情報の共有が課題となっており自主防災隊と組当番を中心に対応しています。



〈土のう作り〉

編集後記

新型コロナウイルスは、ますます猛威を奮い、我が乙島の最大イベントである「乙島祭り」も、二年連続での中止を余儀なくされました。感染防止には最大限の注意を払い、少しでも地域の皆様との交流が図れるように努めています。

広報部も、地域の皆様に【乙島の今】を伝え、明るく・元気な日々が送れるよう全力投球しますので皆様方のお力添えをお願いいたします。

早瀬俊和

編集委員

- 赤沢 始・板野敏夫・江木栄治
 - 後藤保美・瀧澤厚志・瀧澤真知子
 - 早瀬俊和・原田謙一・樋口洋子
- (五十音順)

そんな由緒ある神社に守られながら船堀町内はあり、世帯数は百三十一戸です。高齢化が進む中、いろいろな活動に取り組んでいます。まずはグラウンドゴルフ(船堀GG会)。現在四十五人で、小学校校庭にて毎週土、日曜日、約二時間和気あいあいと練習に励み、月一回は月例会を催して練習の成果を競い合い、年末にはバスで各地のGG場へ遠征して「忘年GG会」を行ない、健康増進と互いの親睦を深めています。又、「町内三世代交流GG大会」を年一回開催して交流を深めています。壮年層が中心の「金縄会」では、ソフトボ

ルを通して親睦を深めています。町内公会堂では、月一回「百才体操」をしており百才をめざして体力作り、健康作りに励んでいます。老人会の活動では、毎月船堀遊園と木野山公園の清掃活動に、元気に汗を流しています。近年新型コロナウイルスの影響で出来ていませんが、脳トレを兼ねた囲碁、将棋、麻雀の大会も計画されています。今後も、健康寿命を延ばし、脳の活性化を図り、いろいろな行事への参加を長く続けられるよう町内皆で頑張っています。